

# 岐大通2014

2014 J.League Division2

F C 岐阜大好き通信 (岐大通)

10/4号

## 第35節 モンテディオ山形 戦

編集発行：『岐大通』製作委員会

今号の製作担当：

ささたく&吉田铸造

10/4 16:00 @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

today's guest : モンテディオ山形 2013 J2 16勝11分15敗 勝ち点59:第10位

1984年に創設の『山形日本電気サッカー同好会』は、『NEC山形』となって1993年の地域決勝で2位(優勝は日本電装)となるも入替戦でJFL 2部8位の西濃運輸に敗れる。しかし、その後JFLからの撤退チームが出たために、同じく入替戦で敗れた日本電装と敗者復活戦が行われ、これに勝利して東北初のJFL昇格を果たす(ちなみに日本リーグ(JSL)時代にはTDK(現・ブラウブリッツ秋田)が1985-86年に参加している)。1999年の2部創設とともにJ2へ。2009年にJ1昇格。アウェー鹿島戦では「シュート0本」で敗れる不名誉な記録を残しつつ、開幕前の“圧倒的最下位”予想を覆してJ1残留を果たし、ホーム最終戦後に理事長が「ざまあ見やがれ!」と挨拶して話題となる。2011年にJ1で最下位になり、J2降格。最高位は2010年のJ1・13位。(吉田铸造)

9/23 ホーム熊本戦では、前半に2点を奪って試合を優位に運んでいたものの、まさかの逆転劇で敗北してしまったFC岐阜。試合の終盤、わずか15分で立て続けに悪夢のような3失点。順位を上げるためにも勝ち点3が必要だった大事なホーム戦を落とすという最悪の展開に、サポーターの怒りも噴き出した。これまでも指摘されていた、得点直後あるいは試合終盤の守備、試合の終わらせ方の課題が改めて浮き彫りになってしまった。しかし、続く3連戦の最終戦、9/28 アウェイ湘南戦では、現在ダントツで首位を独走している強いチームを相手に何度も危険な場面を作られながらも、強い守備でドローに。破壊力のある“湘南スタイル”を(湘南は今季34試合でわずか4試合、ホーム戦では初となる)無失点に抑えたことで、守備陣には大きな自信となっただろうし、また自分たちの守備の問題点も改めて浮き彫りに出来たことだろう。勝てなかったのは残念だが、前節でJ史上最速の昇格を決めた相手に勝ち点1を積み上げられたことは大きい。今後も、この試合で見せた気迫と集中力を継続して欲しいものだ。

この2試合の結果、FC岐阜の順位は13位から14位に下がってしまった。しかも、下位には勝ち点3差以内に18位までの4チームがいるのに対し、上位には12位までの2チームしかおらず、勝ち点では離されだしてしまっている。やはり、9月の5試合は3分2敗と、先制した試合も落として未勝利だった影響が大きいと言わざるを得ない。しかし、失った勝ち点(試合)は後悔しても帰ってこない。選手たちは、これからの試合をひたむきに戦い、勝利を、そして勝ち点を積み上げてほしい。

さて、今節の対戦相手は現在7位のモンテディオ山形。8月末の時点では、岐阜と同じ勝ち点39で11位(岐阜は12位)だったが、9月の5試合を3勝1分1敗の成績で一気に順位を上げ、プレーオフ圏内(6位以内)を視界に入れている、勢いの出ているチームだ。FC岐阜との対戦成績は2勝3分3敗、13得点14失点。岐阜のホーム戦では1勝2分1敗、4得点4失点と互角の戦績だ。古くからの岐阜サポーターには、山形は“Jリーグ初勝利を挙げたチーム(2008年3月20日)”との記憶が残っていることだろうが、(山形がJ2に降格した)2012年以降は勝てておらず、3分2敗という戦績なのも事実。今季も前回の対戦・第3節3/16アウェイ戦では1-3で敗戦している。このホーム戦ではリベンジを果たしたい。山形で最も注意すべき選手は、12得点を挙げている#11 ディエゴだろう。前節も1得点を、そして前回の岐阜との対戦でも1得点を挙げているFWを、湘南戦で自信を深めた守備陣が封じることが、勝利への絶対条件だ。しかし、今節は累積警告で#6 高地系治と#15 ヘニキの主力2名が出場停止と、非常に厳しいチーム事情で試合に臨むことになる。特に高地選手はベテランながら(8/10 ホーム愛媛戦を除いた)33試合に出場し、プレー時間もチームで最長。文字通り、今年のFC岐阜の“中心”選手なだけに、彼を欠いたチームを機能させるために、どの選手をどのポジションで起用するのか、この1週間は試行錯誤が続くと思われるが、ラモス監督の選手起用・采配が的中することを期待したい。また、山形は調子が上向きのチームだが、実は今シーズン一度も連勝した経験がない。前節勝利して、13回目の連勝への挑戦となるが、それがどのように影響するかが未知数とも言える。

残り8試合。山形は簡単な相手ではないが、ホームスタジアムの雰囲気、僕らの拍手や声援で選手を後押ししよう。そうすれば、きっと選手も応えてくれるはずだ。1ヶ月振りのホームでの万歳四唱のため、最後までひたむきに応援しよう。(ささたく)

## 2014J2

### ■順位表■第34節

勝点、得失点差、得点、失点、  
岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

1	湘南	85p	+52	70	18	H●	A△
2	松本	64p	+22	51	29	A●	
3	磐田	59p	+14	58	44	H●	
4	北九州	56p	+3	41	38	H△	
5	岡山	53p	+5	40	35	A●	H△
6	大分	51p	-3	40	43	A●	
7	山形	49p	+8	41	33	A●	
8	京都	49p	+4	49	45	H○	
9	千葉	49p	+3	40	37	H△	A●
10	札幌	48p	+2	40	38	A●	H△
11	福岡	47p	0	44	44	H●	A●
12	横浜FC	45p	+4	37	33	A○	H●
13	長崎	44p	+3	38	35	H△	A○
14	岐阜	42p	0	47	47	---	---
15	熊本	42p	-10	36	46	A○	H●
16	水戸	41p	+2	36	34	A●	
17	栃木	41p	-8	42	50	H●	
18	群馬	40p	-8	35	43	H○	A△
19	愛媛	38p	+2	44	42	A△	H○
20	東京V	31p	-18	25	43	A○	H○
21	讃岐	24p	-36	28	64	H○	A○
22	富山	15p	-41	19	60	H○	A△

## 次回HomeGame

第37節 水戸ホーリーホック戦

10/19(日) 19:00

@岐阜メモリアルセンター

長良川競技場



本庄工業株式会社

<http://www.honjo-woodream.com/>

## 岡田歯科医院

岐阜市加納新本町1-23  
tel:058-273-8998

## ALADDIN

何も無い店だけど..

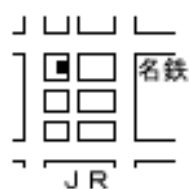
心の花が咲く..

何も無い店だけど..

心癒される..

忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)



「いらっしゃいませ」より  
「おかえりなさい」が似合う  
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は

JR岐阜・名鉄岐阜駅から  
徒歩3分。

休:月曜(定休日が変わりました!)

## 投稿募集!!

gidaidohri@  
hotmail.co.jp

## 【第33節】岐阜 2-3 熊本

●試合が終わってからしばらくの間、ぼくらはぐったりと椅子に座り込んで動くことが出来なかった。悔しいわけでも、腹が立ったわけでもなく、ただただ『堪えた』。大きな心的ダメージ。日本のサッカーの世界でよく言われる「2-0は危険なスコア」という説が実は『都市伝説』的なモノでしかなく、「キチンとこれこれこういう手順を踏んで2-0から負ける試合になる」という、ある意味“教科書”みたいな試合だった。前節の千葉戦、ツカサの退場で10人になりながらも残った選手たちは必死に走って相手ゴールに迫った。同点には出来なかったけれど、その戦い方には「11人いるうちからやってよ」とは思ったものの（苦笑）満足できるものだった。とはいえ、中2日でのこの熊本戦。選手に疲れがないはずがないのだ。それは相手の熊本も同様だろう。守備がとてつもなく軽く、岐阜は軽々と2点を奪うことが出来た。後半にはウチの選手にも疲労が濃く出るだろうけど、ゲームをコントロールして普通に閉めていけばいい。ところが。

ラモス監督の考えはぼくらとは『ねじれの位置』にあったようだ。タイスケに替えて太田。それは、「ゲームを制御する」よりは「さらに攻撃的に行く」とのメッセージに受け取れた。比嘉が負傷すると、こんどは太田をそのポジションに動かして中盤の底に三都主。この段階で「2点差を追いつかれるかもしれない」との予感が少しずつ大きくなっていった。とにかく点を奪わなければならない熊本に対し、守備に強い選手ではなくパスを出してボールを動かせる選手の投入。しかし、3日前に10人で戦った他の選手は疲労でパスコースを作る動きが出来なくなっていた。奪われるパスも増える。すると、運動量的に劣る（とはいえ、しばらく出場もなくそして残り20分で投入された選手が他の選手より動けないというのはいくらなんでもヒド過ぎるが）三都主では中盤が保たない。森勇介の眩暈のするバックパスをかつさらわれての失点がなければ、もしかしたら幸運が作用したかもしれない。しかし、この失点直後のクリアミスもあっての勇介→ナザリトの交代が、「着々とゲームを壊す」選手交代の“締め”の一手となった。3バックで三都主を左ウィングバックに。これでウチの左サイドはほぼ「いらっしやいませ」状態になった。ナザリトも復調にはまだ程遠く、とても「攻撃は最大の防御」にはならない。言うなれば「攻撃は守備の放棄」。熊本は岐阜の左サイドを初心者向けカードマジックのように破って同点にすると、「これは負けもある」とぼくは覚悟した。そして覚悟した通りに試合を落とした。

だから、腹は立たなかった。覚悟は出来ていたから。ラモス監督も、この試合の敗因については納得出来ているのではないだろうか。普段から「1対1で負けないこと」を強く主張する彼が、1対1で容易に負ける選手を入れて敗れたのだから。萩尾望都のマンガのサブタイトルを借りれば『シュールなゲームプランのリアルな崩壊』。サポ仲間が「J」が上がってからのワースト・ゲーム」と断じていたけど、おそらくその通りだろう。

「我々には“チームプレー”という都合の良い言い訳は存在しない。あるのは“スタンドプレー”から生じる“チームワークだ」というアニメのセリフがあるが、今季の岐阜には“チームプレー”はないが代わりに“スタンドプレー”から生じる“チームワーク”もない。あるのは“スタンドプレー”に根ざした“チームプレー”。個人の技量がかみあって戦闘力の次元が上がるでもなく、守備はヘニキがまさにJ2レベルを超えた運動量と技量で一人で綻びを埋めてまわっている状況、そりゃ警告も増えるはずだ。熊本戦で12枚めの警告、湘南戦と山形戦には出られない。

ラモス監督が視ている絵が、スタンドで観戦しているぼくらとは違う景色だということがよくわかった試合だった。監督は「目の前の勝ち点3」に拘っていない。『試合の閉じ方を知

らない』のではなく『試合を閉じる手を打つ気がない』のだろう。となると、試合を閉じる状況になった時に“閉じられる選手”が必要になる。監督自身がシーズン序盤に言っていた「ピッチ上の監督がいない」現状では、「閉じれば勝てる試合を閉じられない」今季の岐阜の戦いぶりは、もう『仕様』とっていいレベルになっている気がする。改善点ではなく、「そういうもの」。相撲取りは接近格闘戦では無類の強さだが100mを10秒では走れない。F1レーサーはもの凄い速度で走れるが家族揃ってのドライブには使えない。「なぜ出来ない?!」と怒るひとはいないだろう。同じことだ。「今季の岐阜は、ゴールは獲るけど獲られます。そういうチームです」。“切った張った”の修羅の世界。「勝ち点を得て順位を上げていく」ことが最大優先価値観であるプロ・リーグでの戦い向きではない。「FC岐阜リニューアル」の1年目としては、これでもいい。でも、来季もこれだと、ちょっとツライ。(吉田铸造)

●僕の中では、“今季最悪”と言って、ほぼ間違いない、「試合を落とした」どころじゃなくて「勝ち点3を相手に献上した」試合内容。前半は、まあ攻められた場面もあったけど、しっかり守備も機能して、しかも#33阿部の嬉しいJ初ゴール、そして#36比嘉諒人→#30遠藤純輝の（昨年セカンドチームでのホットラインを彷彿させるような）針を通すような見事なスルーパスからの追加点を挙げ、岐阜のペース。でも、よくサッカーの格言で「2点差は危険なスコア」って言うけれど、ホントにそれが、しかも後半30分を過ぎてから起きるなんて…。やっぱり、#36比嘉諒人の負傷交替が大きかった。替わりに投入された#11三都主は、ベテラン選手だが守備的ではないし、比嘉ともタイプが違う。「残り15分の試合をどう終わらせるか（3点目を獲りに行くのか、2点を守りきるのか）」という、ピッチに立つ選手の戦術認識にズレが生じ、バランスが崩れてしまったと思う。そして選手たちの足が止まってきていた。（以前から少し気になってるんだけど、今のチームには「攻める時のきちんとした約束」が無くて、選手同士のセンスでボール回しをやってるから、よくパスミスをしてカウンターをされて、それを奪い返して…と繰り返すから、体力の消耗が激しいんじゃないだろうか？）ともかく、そのあたりが最悪の形で出て、わずか15分であれよあれよと3失点されて逆転負けという、ホーム戦で悪夢のようなまさかの展開。さすがに、僕も試合後に選手たちに拍手をする気には…ってというか、かなり怒ってました（溜息）。

8/17群馬戦といい9/14札幌戦といい、試合終盤での失点が多すぎる（まあ選手の集中力や体力が失われてくるので得点シーンが試合終了近くに多いのは当然とも言えるんだけど）。それで失った勝ち点も…ずいぶんあるような。順位を上げるためには、そういったミスを減らさなくてはならない。こんな無様な試合は、もう見たくないです。

(ささたく)

●衝撃的な試合。実にショッキングな敗戦。今季最悪の試合であることは言を待たないが、クラブ史上でも悪い方の5番以内にランクインしそうな試合。少なくとも、G大阪に2-8で負けた時の方がマシに思えた。（でも、試合後に今季を振り返ってみたら、長良川の横浜戦とか、アウェイの水戸戦、札幌戦もたいがいな試合だったのを思い出した。でも、2-0からの逆転負けはちょっと……）

いったい、どうしてこんな試合になってしまったのか？もちろん、絶好調だった諒人の負傷交替は本人のみならず、ベンチもボクらも痛かった。だけど、これは「2点差は危険な点差」とか、追加点を取っていれば、とかいう（そのチャンスは3~4回くらいはあった。ジュンキの2本、クドミの1本、圭輔の1本。）話じゃない。もっと根本的な問題だ。確かに信じられないような致命的なミスから失点した。失点はしたが、ま

だリードしていたのだから、あとはきっちり締めればいい。相手は攻めに来るのだから、カウンターだけを狙うか、上手に時間を使うだけ。それだけのことだと思うんだが……。もつとも、前半から得点差やシュート数ほど、ウチと熊本に差はなかったような気がする。チャンスの回数は変わらなかった。その点から言えば、2-3というスコア自体は妥当なのかも。それに、今回は選手交替についても腑に落ちないところが散見する。前半の時点で両CBが黄紙を受ける。これによってヘニキは少なくとも2試合の出場停止（2試合で確定。ちなみに警告の累積が四回で1試合停止。それ以降は四回累積する度に2試合停止。ただし、悪質な反則とかの事跡があれば3試合以上停止という裁定もある。ヘニキは通算12回目。今季5試合出場停止となった）になったワケだ。となれば、2点差をつけていることでもあるし、次節に向けてCBのコンビを試す意味でもヘニキの代わりに深谷を入れる手もあったのではないかと。あるいは、阿部がもう一枚もらって退場にならないように阿部と替えてもよかった。ベンチに入れるんだから45分は戦えるだろうと思ったんだが……。そのうえ、終盤のヘニキは明らかに疲れていた。先にスタートしたのに追いかけてきた熊本の選手に抜かれる場面もあった。追いつかれたというプレッシャーも重なって連戦の疲労が一気に来たのかもしれない。（逆に、前半は熊本にアウェイ連戦の疲れもあって最後の精度を欠いていたともいえる。）

2点リードの終盤でも、1点差になった時点でも守備的な選手を入れて「守り抜け！」と意思表示をし、意識を統一するのはよくあることだと思う。もちろん、ナザリトのような攻撃的な選手を入れて、相手にブレーキをかけることも戦術の一つだろう。ただ、深谷が「まだ使える状態ではなかった」ので、次善の策としてナザリトを入れたのかもしれない。この辺りは機会があれば監督にお伺いしたいところだ。もっとも、機会がないし、あったとしても答えてはもらえないだろうな（苦笑）。いずれにしても、次節の湘南戦にはCBを入れ替えなければならぬ。深谷の出場はあるのか、ないのか。そして、この悪夢のようだった試合を次節以降にどう生かすのか。非常に気になるところだ。それでも、湘南戦の勝利を信じ、平塚での初勝利を期待してBMWスタジアムに参戦する。バンザイ四唱で9月を締めくくりたいね！（ぐん）

●このゲームに関する感想は他の方が書いてくれていると思うので、少しだけ目線を変えて書きたいと思う。現在の我々のサッカーに対する不満として「ゲームクローズができない」という意見をよく見かける。ゲームクローズとは簡単に言えばリードの状態を保ちつつゲームを終わらせることである。そしてゲームクローズの方法論として大きく分けて2つの選択肢がある。1つは攻撃に使う人数を限定し、守備ブロックの形成に重点を置きながら、カウンターでの追加点を狙うというもの。俗に「カウンターサッカー」と言われる方法論である。もう1つはボールを持ち続けることによって追加点を狙いつつ、相手の攻撃の機会を減らし、結果的に失点をなくすというもの。俗に「ポゼッションサッカー」と言われる方法論である。

私の見る限り、我々は2つ目の方法論に基づいたサッカーをしているように見受けられる。そしてそこに我々のサッカーが先天的に抱える構造的弱点が存在していると僕は思っている。我々のサッカーを簡単に説明すると、ボールを得た瞬間から複数の選手が攻撃に加わりながらパスの選択肢になる動きをして、相手のボール奪取のポイントをずらしつつボールを進めていくというものである。こういったタイプのサッカーに必要な要素として確かな足元の技術と豊富な運動量と攻守における一対一の強さがあげられる。もしこれが不足してい

た場合どうなるか？

チーム全体の運動量減少に伴うパスの選択肢の減少。個人技術に起因する繋ぎのパスのミス。パスコースを生むための動きの裏のスペースを使われる被カウンター機会の増加。一対一の局面でのボールロスト回数と競り合い負け回数の増加。運動量減少に伴う被カウンター時における自陣帰還スピードの低下。まさに熊本戦の敗戦理由そのものである。

そしてこれは熊本戦だけに限った話ではない。我々が自分たちのサッカーを支持し続け、そしてそれに必要な要素を満たすまで永遠に背負い続ける構造的弱点でもある。よって我々がこれを満たすことができるまで多かれ少なかれ同じようなカタチの敗戦を何度も体験することになるだろう。

しかしながら、我々のサッカーがもたらしてくれるプラスの側面を忘れてはならないのではないとも思う。

ゴール回数の増加による観衆の歓喜の機会の増加。常に攻め続ける選手達が醸し出す攻撃的で前向きな姿勢。試合が終わるまで安心できないジェットコースターのようなドキドキ感。そういった娯楽性を楽しみに長良川に訪れる方も多いのではないだろうか？そしてこれは我々のクラブがリピーターを増やすことに成功した一因でもあるだろう。

最後になるが、我々のサッカーがこの先どんな進化や深化を遂げるのか私にはまだ分からない。ただ、いつかは選択の時が訪れる。

リアルとロマン。リザルトとエンターテイメント。大多数のサッカークラブが両立を達成し得なかった二者択一のコインの裏表。

その時我々はどちらの道を選ぶのか。

そんな未来図を頭に描きつつ、私は今現在の我々のサッカーを一杯楽しんでいきたいと思っている。

（マツヒラ）

## ダサンダーの時間（笑）

●9/29に、2015年シーズンのJ1・J2のクラブライセンスが交付され、我々がFC岐阜はJ2ライセンスが交付されました。当然に想定されていたこととはいえ、やはり専用の練習場やクラブハウスが整備されていないこと大きな原因です。しかし逆に、昨シーズンまでは「累積債務が解消できなければライセンスが交付されない（=J2にもいられない）」という恐怖があっただけに、僕はなんだかホッとしています（苦笑）。

そして前節の第34節、最下位の富山が負けて岐阜が引き分け、残り8試合で勝ち点差が27となったため、FC岐阜の2014年最下位（=J3で優勝争いをしている全チームがJ2ライセンスを交付されたので、来年はJ3に自動降格）回避、順位21位以上が確定しました！！（笑）

いや、「今年はそんな低い目標じゃないだろ」と言われるでしょうけど、2012年は最終第42節で、2013年は第41節でJ2残留を決めた（なお、2011年は第36節で最下位が確定した）ほろ苦い記憶を持つ身としては、つい…（苦笑）。

なお、21位・讃岐との勝ち点差は現在18。今節・山形戦に岐阜が勝利して讃岐が群馬に敗ければ、残り7試合で勝ち点差21、岐阜の得失点差が38以上に多くなることから、ほぼFC岐阜のJ2残留が確定します。しかし、讃岐が勝てば次節以降に持ち越し…まあ現在でも「安全ライン」と言えますが、ライセンスも交付されたことですし、J2残留をしっかりと決めて、2014年シーズン終盤の順位争いと同時に、2015年シーズンに向けたチーム構想も、今年はゆっくりと楽しみたいものです（笑）。

（ささたく）

## 【第34節】湘南0-0 岐阜

●前節の熊本戦での逆転負けのショックを若干？引きずったままで（苦笑）向かったBMWスタジアム。相手は首位を独走して前節でJ史上最速の昇格（正確には2位以内）確定を決めた湘南。勢いのある相手だけに、岐阜の選手たちも引きずってなきやいいけど…と思ったのは、しかし嬉しいことに杞憂だった。

前節とスタメンを6人入れ替えて臨んだ岐阜。しかも初出場の#3 深谷友基や#16 須藤右介の姿もスタメンにいるのを見て、「これは随分と大胆な策に出たな」と思ったけれど、その策が奏功した。次々と二列目三列目から縦に押し上げてくる“湘南スタイル”に対して、何度もヒヤリとさせられるシーンはあったけれど（苦笑）、DF陣が集中して粘り強く身体を張ってゴールを許さなかった。よく湘南がオフサイドに引っかかってた（ような気がする）から、DFラインも統率がとれてたんだろう。逆にシュートはわずか2本に終わってしまった（苦笑）が、首位・湘南相手に、しかも敵地・BMWスタジアムで、今シーズン初となる無失点試合をやりきったことは、前節の悪夢を払拭できる守備陣の自信になったんじゃないか…いや、必ず自信にしてください（笑）。（ささたく）

●90分間+α、緊張感に満ちた試合だった。ほぼ一方的に攻め込まれてハラハラドキドキしたという胃の痛くなるような緊張感だったけど、前節と比べたらはるかにマシだ（苦笑）。高地のゴール線上のクリアもあったし、毎度おなじみのキャプテンのビッグ・セーブもあった。シュート数2対14。数字に表れている通りの内容で、いつ決められてもおかしくなかったけれど、出場した選手が終了まで体を張って戦ってくれたおかげで貴重な勝ち点を積み上げることが出来た。聞くところによると、湘南がホームで無得点だったのは今季初だったとか。価値あるスコアレス・ドローだったと思うことにする（笑）。本音を言えば、湘南に一泡吹かせてやりたかった。長良川での借りを返したかったし、このスタジアムでの初勝利を挙げたかったけれども、現状ではこれが精一杯ということかな。

ほとんど守備に奔走した試合だったけれども、拓己のあのシュートは惜しかった。押されっぱなしのチームがああいうのを決めて、1-0で勝つというのが醍醐味なんだが、それはゼイタクというものだな。それから、この試合でも司にボールが渡ると何かが起こりそうな感じがした。雰囲気は漂うっているのかな？ホントにイイ感じで熟成、成長してきていると思う。まちがいなく、ウチのストロング・ポイント。これからは彼のプレーを楽しみにしていきたいし、「岐阜の宝」として大切に支えていきたい。

ただ、一つ気になったことがある。それは深谷の途中交代。前節、ベンチ入りしながらアノ展開で出場しなかったことも腑に落ちないけど、満を持して出場したはずのこの試合に前半のみでお役御免。決して効いていなかったワケじゃない。むしろ、期待通りにやってくれていたと思う。湘南の猛攻を受けてダメージがあったのか、大事を取ったのか。いずれにせよ、次節以降に影響がないことを切に願う。

前述の通り、二年ぶりの平塚でまたしても勝利を挙げることはできなかった。来季の対戦はない（天皇杯はあるかも）ので再来年以降まで待つことになるけど、正直なところ湘南にはこのままずっとJ1にいてほしい。なにしろ、ゴール裏の立見席が前売りで2,600円もするようなスタジアムには行きたくない（爆）。以前はゴール裏が解放されてなかったのでバクスタでの応援だったけど、その時の値段と同じなのがどうにも解せない。それから見ると、ウチはまだまだ良心的な方だと思いました。う～ん、なかなか平塚ではイイ思いができませんねえ……。

これで9月は未勝利のまま終了。懸念されていた夏場に好結

果を残した反動なのかな？今後の対戦相手も上位が続いて厳しいけれども、このままでは終われないし、終わってほしくない。まずは、山形戦での勝利を期待しています。共に戦いましょう！（ぐん）

## 【ユース】いよいよ終盤戦

●我らがFC岐阜ユースU-18（以下FC岐阜ユース）が戦っているG1リーグは後半戦も大詰めを迎えています。先号の岐大通以降では9/23に行われた第14節の各務原戦では先制したものの逆転され、試合終了直前に追付いたものの3対3の引分けで、この日土岐商業に勝利した岐阜工が得失点差で首位になりました。続く9/27に行われた第15節関商工戦でFC岐阜ユースはまさかの1対5での大敗。順当に勝利して勝ち点を伸ばした岐阜工に勝ち点でもリードを許す結果となってしまいました。

そして本日10時から笠松町の岐阜フットボールセンターにてその首位岐阜工との対戦が行われている筈です。今年のG1リーグの優勝をかけた大一番。吉報が届くのを首を長くして待っています。そして10/11には第17節長良戦が予定されています。

一方のJユースカップもいよいよ予選リーグが始まります。初戦は明日10/5（日）にアウェイでガイナレ鳥取U-18戦です。前日の岐阜工戦が終わってからの遠征・連戦と言う強行日程ですし、何より鳥取はFC岐阜ユースがまだ突破出来ないクラブユース選手権本大会に3年連続出場しているチームです。決して簡単な試合にはならないでしょうが、精一杯戦って来て欲しいです。そして10/12（日）には唯一のホーム試合となる川崎フロンターレU-18戦が有ります。試合は養老町スマイルグラウンドにて13時K.O.の予定です。この日はトップチームの試合も有りませんので、是非ユースの応援に行ってやって下さい。

頑張れよ、応援しているからな！FORZA！FC岐阜ユース！！※試合会場・時間は変更の可能性があります。特にG1リーグは最近よく日程・会場の変更が有ります。必ず岐阜県サッカー協会やJリーグ、チームの公式サイトで日程等をご確認下さい。

（シュナ）